



自主防だよい

「能登半島地震被災地」の現地視察研修報告

日頃から各集落の皆様には、本協議会の活動にご理解ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

さて、10月に「能登半島地震の復旧状況」の視察研修があり、石川県で住民や町職員から大地震発生から避難、避難所生活等での生の声を聞いたので何点か紹介します。震度7の大きな地震が発生したのは元日の寒い夕方、住民は着の身着のまま助け合いながら倒壊していない役場や学校に徒歩で避難。道路の崩壊に加え、停電、断水及び汚水管の壊れた状況等、大変な避難生活を余儀されたとのことでした。避難所で特に困ったことは、簡易トイレ不足でグラウンド等で用を足すこと、水不足、寒い、寝れない日が続き、下着は2週間同じ物、粉ミルクや常備薬等が不足、食料は非常食のみ、風呂も2週間入れなく頭がかゆい等が続いたそうです。また、応援隊も少なく、避難者同士が協力して対応したとのこと。行政機関からの本格的支援は4日目からとなったので、改めてよく言われる3日分の水等は各自が常時準備し、非常時袋に詰めて避難することが重要と認識しました。以上、視察研修で学んだ最低限の心構えを列挙しました。

今後、いつどんな災害が起こってもおかしくない状況となっています。一人でも多くの方が防災意識を高めれるように活動していきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

浜村地区自主防災会連絡協議会 会長 地原 伸

令和7年度《活動報告》

6月22日(日) 浜村地区防災研修会



鳥取大学工学部特任教授 松見吉晴さんを講師に、防災マップにより、浜村地区の危険箇所や防災力の強化について学びました！



10月12日(日) 救急救命講習



気高消防署署員から、胸部圧迫や気道確保の方法を学びました。



11月16日(日)浜村地区防災訓練 浜村小学校体育館での様子

簡易トイレの組み立て
携帯トイレの使用訓練



災害時、トイレは水が使えません。携帯トイレが必要になります。

段ボールベッドの組み立て
パーティション組み立て



段ボールベッドは弾力性があり、直接床に横たわるよりも身体の負担を軽減します。

簡易担架の組み立て、使用訓練



毛布と物干し竿を使って、簡易担架を組み立てました。

煙体験訓練



ハンカチや手などで口や鼻を覆い、煙を吸い込まないように、姿勢を低くして逃げることに。

65ミリのホースと40ミリのホースの違いを体験しました。

放水訓練



水消火器での消火訓練



- 1、黄色いピン(安全栓)を抜く
- 2、ホースを取り外し、火元に向ける
- 3、レバーを強く握る

防災食の試食体験



お湯(7分)又は水(40分)で作る携帯おにぎりを製作・試食しました。

今、浜村地区は自主防災の取り組みに重点的に取り組んでいます。そこで感じることは、地域によって取り組みに差があるということです。危機管理意識を高めることは「危機を危機と感じた時」に始まります。ここで厄介なことがあります。それは、危機意識には「個人差」があるということです。「どうせ大丈夫だから」「我が家には関係がないことだ」この気のゆるみが問題なのです。災害の怖さは知識ではなく、意識を高めることで本物となります。普段から「まさか」ではなく「もしかして」という意識を大切にしましょう。

今回の訓練では、次の備品を購入しました。

- 訓練用水消火器・まと
- 簡易トイレ・凝固剤

集落の訓練に貸し出しも可能です。